

学校法人 兵庫医科大学

広報

 兵庫医科大学  兵庫医療大学

vol. **208**
2010年10月号

総合医療大学でチーム医療を学ぶ 4学部合同のチーム医療演習(チュートリアル)を実施

兵庫医科大学・兵庫医療大学 キャンパス見学会

最近の主な出来事、トピックス

職場レポート

海外便り／多彩人



大学探訪

インド菩提樹

(兵庫医科大学 3号館北東)

表紙を飾る大木は兵庫医科大学(西宮キャンパス) 3号館正面にある森村像に向かって右手に位置する、樹高が約15m、胸高直径が約60cmのインド菩提樹です。

クワ科の植物で、学名をFicus religiosa Linné(フィカス:「イチジク属」、レリギオサ:「宗教の」、リンネ:「命名者」と言い、お釈迦様がこの木の下で悟りを開いたとされています。主にインドや東南アジアに分布し、「京都のお寺によくある菩提樹はシナノキ科に属する中国産の別種で、そもそも熱帯性のインド菩提樹の大木が近畿地方に育つのはたいへん稀有なこと」と、生物学 塚本主任教授。

ネパールで初めて医師養成機関となるトリブバン大学の医学部創設に、兵庫医科大学は16年間にわたって協力しました。この国際交流プロジェクトを記念して昭和56年に約10本の苗木がネパール王国から贈られました。その一株から約30年の時を経て見事に成長したこの菩提樹がもつ『生命の力』は、まさに医の原点のシンボルとして相応しいと言えます。

目次

01 大学探訪(表紙について)／目次

02 総合医療大学でチーム医療を学ぶ 4大学合同のチーム医療演習(チュートリアル)を実施

07 最近の主な出来事

■ 兵庫医科大学

09 兵庫医科大学キャンパス見学会を開催／私立医科大学合同入試説明会・相談会を開催

10 兵庫医科大学4年生 トリアージ、除染訓練を実施／財団法人等各種団体による研究助成金等の交付状況

11 平成22年度西日本医科学生総合体育大会(西医体)など活動報告／西医体を終えて

12 臓器移植に関する講演会・シミュレーションを実施／平成22年度看護学生インターンシップを実施

■ 兵庫医療大学

13 兵庫医療大学オープンキャンパスを開催

14 第1期生のキャリア形成・就職支援について(ささやま医療センター見学会・キャリアデザインガイダンス・スキル対策講座)

15 「入学生・在学生特別奨学金」制度がスタート

16 薬学部主催高大連携イベント「高校教員向け理科実験講座」を開催

■ 学校法人兵庫医科大学

17 規程等の制定・改正

18 読者アンケートを行います／株式会社エイチ・アイから医療機器の寄贈

19 学校法人兵庫医科大学基金 状況報告／兵庫医療大学のための募金 状況報告

20 海外便り ～海外で活躍する研究者からのメッセージ～

石 亦宏さん(第2回)

University of California San Diego, School of Medicine Department of Medicine Assistant Professor

多彩人

森下 裕子さん

兵庫医科大学病院 中央放射線部 看護師長

21 職場レポート

兵庫医科大学病院 中央放射線部

兵庫医科大学病院 看護部 1号館10階東病棟

兵庫医科大学ささやま医療センター 医療技術部門 ME室

医療専門職の協働(チーム医療)が不可欠の時代

総合医療大学で チーム医療を学ぶ



「チーム医療演習」西宮キャンパス

近年、医療は急速に高度化・細分化しています。疾病構造や医療に対する社会のニーズも多様化しており、ただ病気を治すだけでなく、社会的、心理的、倫理的な面にも配慮した全人的医療が求められています。患者さんを中心とした医療を実践し、またその質を向上させるためには、多種類の医療専門職の協働(チーム医療)が必須であり、医科大学・医療大学には、それらの実践能力をもつ医療人養成が求められています。

学校法人兵庫医科大学は、兵庫医科大学に医学部、兵庫医療大学に薬学部、看護学部、リハビリテーション学部(理学療法学科・作業療法学科)を擁する総合医療大学であり、この特徴と環境を活かして、ボーダレスな教育を目指しています。4学部が合同で学ぶ機会を設けるなど、医療職種間の相互理解や、チーム医療を駆使して患者さんの問題を総合的に解決する能力を身につける教育を積極的に行っています。

4学部合同のチーム医療演習(チュートリアル)を初めて実施

昨年度に引き続き、平成22年9月21・22日、兵庫医療大学神戸キャンパスにおいて、兵庫医科大学、兵庫医療大学(薬学部・看護学部・リハビリテーション学部)の1年生による4学部合同チュートリアルを行いました。これは、「早期臨床体験実習」(兵庫医科大学)、「医療科学概論」(兵庫医療大学)の授業の一部で、チーム医療の基礎作りが目的です。

そして、平成22年9月24・27～30日、兵庫医科大学西宮キャンパスにおいて、兵庫医科大学3年生と兵庫医療大学4年生による4学部合同チーム医療演習(チュートリアル)の授業を行いました。医学部3年生と薬学部・看護学部・リハビリテーション学部の4年生が一堂に会してチーム医療の立場で医療を考え、様々な問題を解決することを目的としており、本学法人における「チーム医療演習」の授業として、初めての実施となりました。



「4学部合同チュートリアル」神戸キャンパス

「チーム医療の立場で医療を考え問題を解決する」

医学部3年生と薬学・看護・リハビリテーション学部4年生によるチーム医療演習を初めて実施

今回は2組に分かれて異なる症例をテーマに、最初の診断を含め急性期から回復期までの流れに沿って、各職種が専門性を活かして症例に対する問題点を明確にし、その情報を共有しながら問題解決していくチーム医療の実践を学びました。

9月24日に全体ガイダンスを受けた後、24・27日の2日間、7、8人ずつ60グループに分かれてグループ討議とチュートリアル自習を行いました。28日に10分ずつのグループ発表を行い、29日に症例に関する解説講義と討論が行われました。30日には試験が行われ、試験終了後に平成記念会館大講堂において、チーム医療についての特別講演(神戸大学医学部 平井みどり教授)と総括が行われました。



兵庫医科大学 医学教育センター／医療人育成センター
鈴木 敬一郎 センター長

本科目は兵庫医療大学4年生(全学部)と兵庫医科大学の3年生の合わせて約450名の学生の皆さんが一堂に会して行いました。それぞれ学年が異なるのは、既に臨床実習に出ている兵庫医科大学(看護とリハビリテーション)の4年生の経験と、兵庫医科大学医学部学生の知識を組み合わせ、お互いの長所を引き出そうという考えからです。そして4学部混成の小グループによるチュートリアルで症例の問題解決と一緒に考え、チーム医療を学びました。

近年、チーム医療が重視される主な理由のひとつは医療の目標が変わってきたことです。以前の医療の目標は病気の治癒や延命が主体でした。もちろん今も重要ですが、それらに加えて生活の質(QOL)の向上や維持も重視されるようになりました。そのためには多職種の連携が必要です。次に医療をもっと長い時間軸で考えるようになってきたことが挙げられます。生活習慣病の概念や介護保険制度の導入でもわかるように、医療は病院の中だけで行われるのではありません。予防に始まり、急性期の治療、慢性期の治療、リハビリテーション、在宅での治療や介護、療養、そして看取りまで全てが医療なのです。急性期病院では医師の果たす役割が大きいです、時間軸の他の部分では他職種の働きの方がむしろ大きいと思います。

もちろん1週間のこの教育でチーム医療が十分に理解できるはずがありません。短い期間ですが、将来一緒に働く医療人としてお互いを意識し、チーム医療について考えるきっかけにして欲しいと思います。

第3グループ Watch

症例A：38歳男性。風邪を引き体調を崩し、両側四肢のしびれと脱力感を自覚、他院入院後に精密検査のため兵庫医科大学病院に紹介入院となった

医学部 松井 美樹さん

看護学部やリハビリテーション学部の学生たちは病院実習も経験しているので、患者さんとのコミュニケーションの取り方や実際の現場の話聞くことができ、勉強になりました。家族構成や様々な背景まで考えることが大切で、改めて医療について考えさせられました。5年次の臨床実習前にこういった機会を持つことができて良かったです。

看護学部 吉田 信一さん

専門的なことも学び、病院実習を経験した後なので、メンバーそれぞれが専門領域に踏み込んで参加できたと思います。各担当の意見を尊重し、また自分の考え方もしっかりと伝えながら、医療方針や様々な情報を共有しあうことができました。

薬学部 吉川 夏未さん

今回4学部合同チュートリアルに参加してみて、これまで勉強してきたことが、少しずつ身についているなど実感しました。医学部の学生は医学についてとても幅広く勉強しており、とても頼りになりました。全体的にコミュニケーションが取りやすかったです。

リハビリテーション学部 理学療法学科 阿部 裕子さん

兵庫医科大学病院や他の病院・施設での実習を終え、急性期から回復期までの流れや、患者さんとの接し方を学び、他職種との連携が重要であることを理解した状態で、今回の合同チュートリアルに臨むことができました。理学療法からの意見もしっかりと伝えながら、より具体的に関わることができました。



第4グループ Watch

症例B：健康診断で血圧が高めだったが放置していたところ、動悸がするようになり近医を受診したが、帰宅後に突然しゃべりにくくなり、右上下肢も動きにくくなったため緊急入院となった

医学部 奈村 憲幸さん

今までは所見、診察、治療といった流れでしか考えていませんでしたが、特に看護学部やリハビリテーション学部の学生たちが「家族構成」「入院中の家族への配慮」「退院後の生活」など、自分たちとは違った観点で患者さんを見ていることに驚きました。これまでにないチュートリアルで、とても楽しかったです。

看護学部 山根 綾華さん

今回の4学部チュートリアルでは症例の診察・所見から踏み込んでスタートしたという点がとても新鮮でした。医学部の学生は専門知識も豊富で、病名が判明するとその後の流れも考えやすかったです。患者さんの家族構成や背景などを知り、寄り添いながら関わりたいと改めて思いました。

看護学部 浦 雅美さん

3年次編入の学生で看護師として勤務経験があります。患者さんに寄り添い、色々な角度から患者さんを支えられるのは、「チーム医療」への意識が高い医療従事者に多いように感じています。学生のうちから「チーム医療」の大切さを知ることはとても重要だと思うので、今回のような4学部合同でのチュートリアルは有意義だと思います。

薬学部 小林 真さん

今回、学部・学科によって症例に対する考え方が異なることを実感しました。薬学的観点から最善の薬剤を選択したつもりでも、患者さんの状態によって、そうでない場合があることもわかりました。他学部の色々な考え方を知り、チーム医療を肌で感じる事ができたので、とても有意義な時間でした。

リハビリテーション学部 作業療法学科 高畑 美佐さん

既に体験した病院や施設での実習では、それぞれの職種が専門性を活かして働き、考え方も異なると感じました。互いに連携し情報を共有することは大切だと思うので、いろいろなことを想定しながら今回のチュートリアルに臨みました。



チューターから



兵庫医科大学
環境予防医学
阪本 尚正 講師

●専門分野を活かしながら、他学部生と知識を共有した学生達

学生達は専門分野の観点から意見を述べつつ、他学部生の様々な意見に新鮮な感動を覚えたようでした。たとえば、看護学部生は、診断の過程における問題点の抽出の仕方や鑑別診断の仕方等、リハビリ学部生は、診断に至るまでに様々な画像や検査所見によって検討が重ねられていること等、また、薬学部生は、患者さんの病態がより具体的に把握でき、薬の作用、副作用の説明をする際の知識として、とても参考になったようです。一方、医学部生も、患者さんの家族が体調不良の場合の介護計画の立て方等、診断と治療中心の思考に新たな視点を得たようです。

今回、互いに自分の専門分野について他学部生にわかりやすく説明し、知識を共有する姿がとても印象に残りました。私の専門は環境予防医学ですが、すべての疾病予防分野を網羅したようなチュートリアルに参加でき、とても勉強になりました。今後も、より学際的なチュートリアルが行われることを期待しています。



兵庫医療大学リハビリテーション学部
作業療法学科
山崎 せつ子 教授

●チーム医療演習に参加した学生の方へ

この演習は、学生達にとって貴重な経験になったと思います。私は演習にフル参加しましたが、それは期待以上に充実した時間となりました。学生の方にとっての「充実度」は、紙面情報からどれだけ「実際」をリアルにイメージできるかという能力によったのではないのでしょうか。「イメージできればやる気も出る」。この能力は臨床家として重要です。

今後、症例検討会や学会等で症例をイメージする「機会」は多くあります。その時にどの程度のイメージができるかは、実は聴き手の能力によります。麻痺側上肢のみイメージしている初心者から、個人因子・環境因子を含んだ将来像までを考えているベテランもいます。「機会」を大切にすることでこの能力は育成されます。今回の演習を通して、チーム連携の重要性とともに、このような臨床能力の大切さに気づいていただければ、と思います。

「チーム医療とは何か」を考える

1年生4学部合同チュートリアル(早期臨床体験実習・医療科学概論)を実施

昨年度から始まった1年生の4学部合同チュートリアル。今回は「脳血管障害をおこした74歳の女性が急性期から回復期を経て、最終的に介護老人保健施設へ入所するまで」というシナリオに沿って、「疾患の急性期から回復期に行われる医療やサポート、それぞれに関与する医療職者、主体となる医療施設」「症例には登場しないが想定されること」について導きだすことをテーマとしました。

9月21日に全体ガイダンスを受けた後、22日の午前中まで10～12人ずつ42グループに分かれてグループ討議やグループ発表の準備を行い、22日の午後から5分ずつのグループ発表を行いました。松田兵庫医療大学長は「チーム医療の考え方は先進国ではスタンダードです。専門性の高い職種が力をあわせて患者さんにアプローチすることが大切です。各自が専門性を高めることも意識して学んでいって欲しい」と学生にエールを送りました。



兵庫医科大学と兵庫医療大学の全学部1年生を対象とした合同チュートリアルは、昨年度に引き続き第2回目として兵庫医療大学(神戸キャンパス)で実施されました。医学部、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部とも4月入学以来、医学・医療に関する専門科目の講義が始まっていない時点でのチュートリアルということから、3年・4年の合同チュートリアルとは異なり、症例における診断や治療など医療の実際を討議するのではなく、シナリオを基に症例の急性期から慢性期の各病期に関わる多くの医療専門職の役割を理解することを目的とした内容でした。各学部とも今から各々の専門分野を学習していくこの時期に他学部の学生とその学習内容を意識することにより、協働して医療にあたる意義を強く意識してもらうねらいもあります。

各学部ともすでに早期臨床体験(ECE)を経験していますが、この教育的効果と同様に医療系学部への入学早期に他医療職をめざす学生との交流により、今後の勉学モチベーションを高めるよい機会になったと思います。



兵庫医療大学 共通教育センター
末廣 謙 センター長



最初の自己紹介で「あだ名で互いを呼び合い、話しやすい雰囲気を作る」という工夫をしました。さまざまな視点で意見を出し合い、「患者さんもチーム医療の一員として位置づけ、皆で治療やその後の生き方をどのようによくしていくか」を考えました。

医学部 武田 紗季さん

薬学部、看護学部、リハビリテーション学部の人の色々な意見が聞け、これまで医学部だけで勉強している時と違った視点で取り組むことができ、面白かったです。知らない言葉も沢山出てきて、勉強になります。新学期が始まったこの時期に、このような合同チュートリアルに参加し、また新たな気持ちで勉強したいと思いました。

薬学部 井上 舞香さん

初対面で緊張しましたが、医学部の学生からの視点がとても勉強になりました。医学部でどういった勉強しているかを知り、刺激を受けました。私ももっと色々と勉強したいと思いました。

薬学部 外山 真理奈さん

医学部の人は病気のことをよく知っているので、話を進めやすかったです。職場見学で訪問した病院で、薬剤師は「薬」のプロフェッショナルとして積極的に意見を述べ、チーム医療の一員として活躍されていました。そのようなことも少し意識して、今回のチュートリアルに臨みました。

看護学部 芝地 瑞希さん

これまで3学部合同のチュートリアルはありましたが、今回は医学部が加わって、少し違った感覚で取り組みました。入学して半年で、今は基礎的な部分を勉強しているところですが、少しでも学んできたことを活かせるよう頑張りました。

リハビリテーション学部 理学療法学科 加藤 尚也さん

今回は薬学部、看護学部、リハビリテーション学部に加えて、医学部の学生とも一緒に勉強することができ、いつもと違った雰囲気の中、新鮮な気持ちで取り組みました。面白かったです。

リハビリテーション学部 作業療法学科 兵頭 亜里紗さん

医学部が加わったことで異なった視点から考えることができ、より深く話し合うことができました。それぞれの学部の色々な意見を聞くことで、私の考え方にも少し変化があったりと、とてもいい経験ができました。



8月 August

	■兵庫医科大学	キャンパス見学会	P9
2	■兵庫医療大学	3学部合同早期臨床体験実習(2-6日)	➡
7	■兵庫医療大学	オープンキャンパス(7・8日)	P13
10	■兵庫医療大学	キャリアデザインガイダンス(薬学部対象)	P14
11	■兵庫医科大学病院	医療講演会「臓器移植に関する法律の一部改正」	P12
18	■兵庫医科大学病院	市民健康講座「お口の健康は歯周病予防から」(歯科口腔外科 木崎 久美子 副主任 技士)	
21	■兵庫医科大学	私立医科大学合同入試説明会・相談会	P9
	■兵庫医療大学	オープンキャンパス(21・22日)	P13
24	■兵庫医科大学病院	接遇研修「クレーム対応について」	➡
26	■兵庫医療大学	ささやま医療センター見学会(全学部生対象)	P14
27	■兵庫医療大学	薬学部主催高大連携イベント：高校教員向け理科実験講座	P16
28	■兵庫医科大学病院	児童からの脳死下臓器提供シミュレーション	P12
	■ささやま老人保健施設	納涼祭	➡
30	■兵庫医療大学	社会人スキルガイダンス(リハ学部対象)	P14
31	■兵庫医科大学	学生防災訓練(トリアージ、除染訓練)	P10



8/2~8/6 兵庫医療大学 3学部合同早期臨床体験実習

1年生全学部を対象として、兵庫医科大学病院において早期臨床体験実習(ECE)が実施されました。実習は3学部混成の小グループを編成し、薬剤部やリハビリテーション部の見学、および一日の病棟業務を体験しました。実習終了後の8月9日にはグループごとにECEで学んだことについての発表も行われました。専門的な科目を学ぶ前のこの時期に、医療の現場に直接触れることで、医療従事者になる自覚や勉学のモチベーションがより高まりました。



9/16 兵庫医科大学 特別講義・FD講演会

日本医師会男女共同参画委員会、兵庫県医師会、兵庫医科大学の主催により、女子医学生、女性医師等に関する特別講義・FD講演会を開催し、東京女子医科大学病院長・消化器内科教授の白鳥 敬子 先生にご講義・講演いただきました。特別講義とFD講演会の間には、白鳥先生と、医学生や研修医を含む医師との交流の場が設けられました。

○特別講義「医師としてのキャリアデザイン-女性病院長として-」(9-2講義室・学生、他約140名参加)

○FD講演会「医科大学における男女共同参画プログラム」(9-1講義室・教職員、他約50名参加)



8/24 兵庫医科大学病院 接遇研修「クレーム対応について」

看護部クラークと事務職員を対象とした、患者サービス向上委員会主催の接遇研修に、看護部クラーク102名、事務職員119名が参加しました。日本医療事務センターの接遇インストラクターを講師としてお招きし、「患者さまへの“心地よい対応とは”」をテーマに、講義と事例の実践を交えた研修が行われました。

事例をもとに2人1組となって、クレームが発生させないための配慮点や、クレームが発生した際の解決へのステップとテクニックなどについてシミュレーションを交えながら学び、日々の接遇向上にすぐに役立つ内容となりました。



8/28 ささやま医療センター 第11回ささやま老人保健施設納涼祭

毎年恒例の納涼祭を開催しました。今年度は、6月にリニューアルオープンしたささやま医療センターの玄関ホールも会場として利用し、兵庫県立篠山産業高等学校プラスバンド部の演奏を行いました。他にも、同校東雲校の樽太鼓、マジックショー、篠山デカンショ節保存会によるデカンショ踊りなどのイベントや、ヨーヨー釣りや輪投げなどのゲームも多数行われました。ご参加いただいた施設利用者とそのご家族、ボランティアの方々、職員を含め総勢330名での開催となり、盛況な納涼祭となりました。

TOPICS 兵庫医療大学 大学祭「海梟祭」を開催

10月9日(土)・10日(日) (詳細は次号の広報209号で掲載します)

2010年のテーマは「ONE PIECE ～繋げていこう！僕らの絆～」。

「ひとりひとりの存在(ONE PIECE)を大切にしたい、これまで築いてきた繋がりをさらに広げていきたい」という思いを込め、学生たちは「絆」を深めるために、また来場者を楽しんでいただけるように、たくさんのイベントを企画し準備しました。

